

旭川医大医学部学生の
育児に関する意識調査の結果報告

旭川医大 二輪草センター 堀 仁子

アンケートを施行した背景

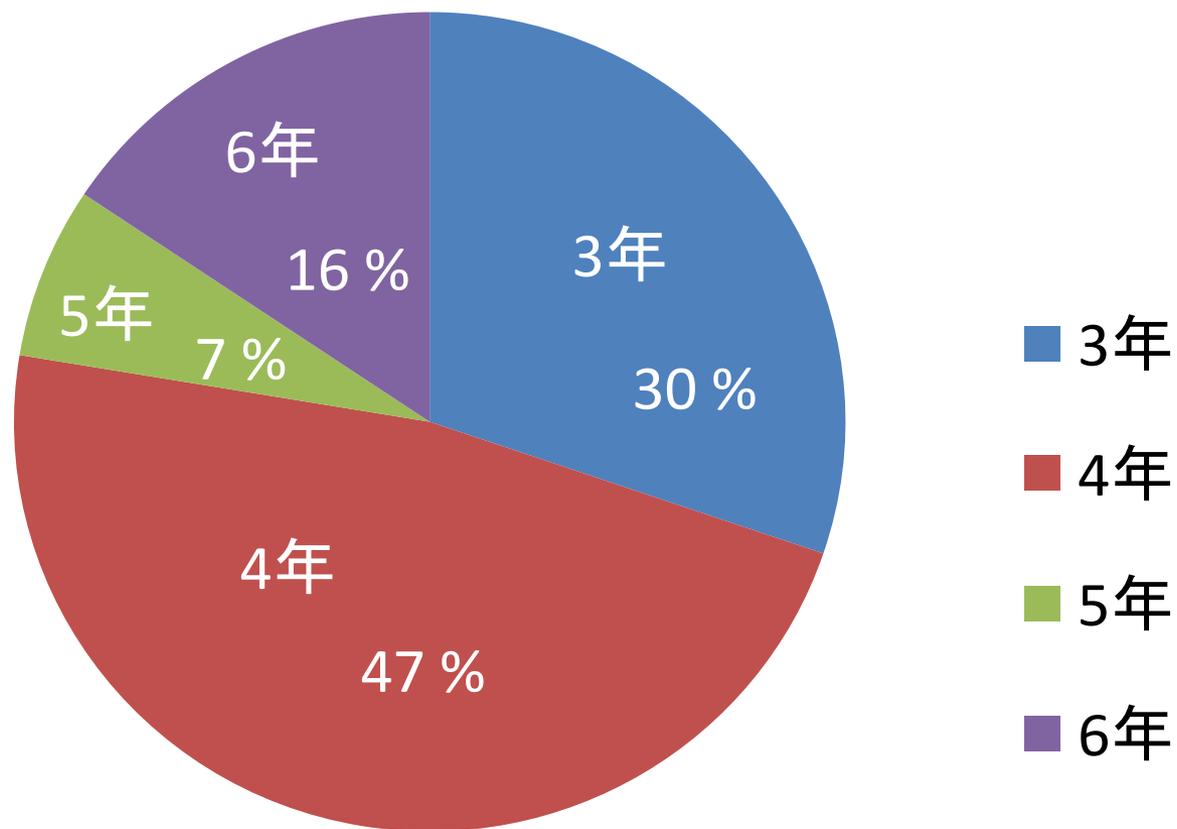
- 医師不足や医療崩壊の危機が問題となっている中で、出産や育児のために休職せざるを得ない、あるいは復帰の機会に恵まれない女性医師が多く存在する現状は、早急に改善する必要があるといわれている。
- 今後医師となる学生に、将来に対する不安や改善が必要と考えていることを調査し、今後の対応策に役立てるために、北海道女性医師の会から二輪草センターに男女共同参画に関するアンケートの依頼があった。

対 象：3年生から6年生

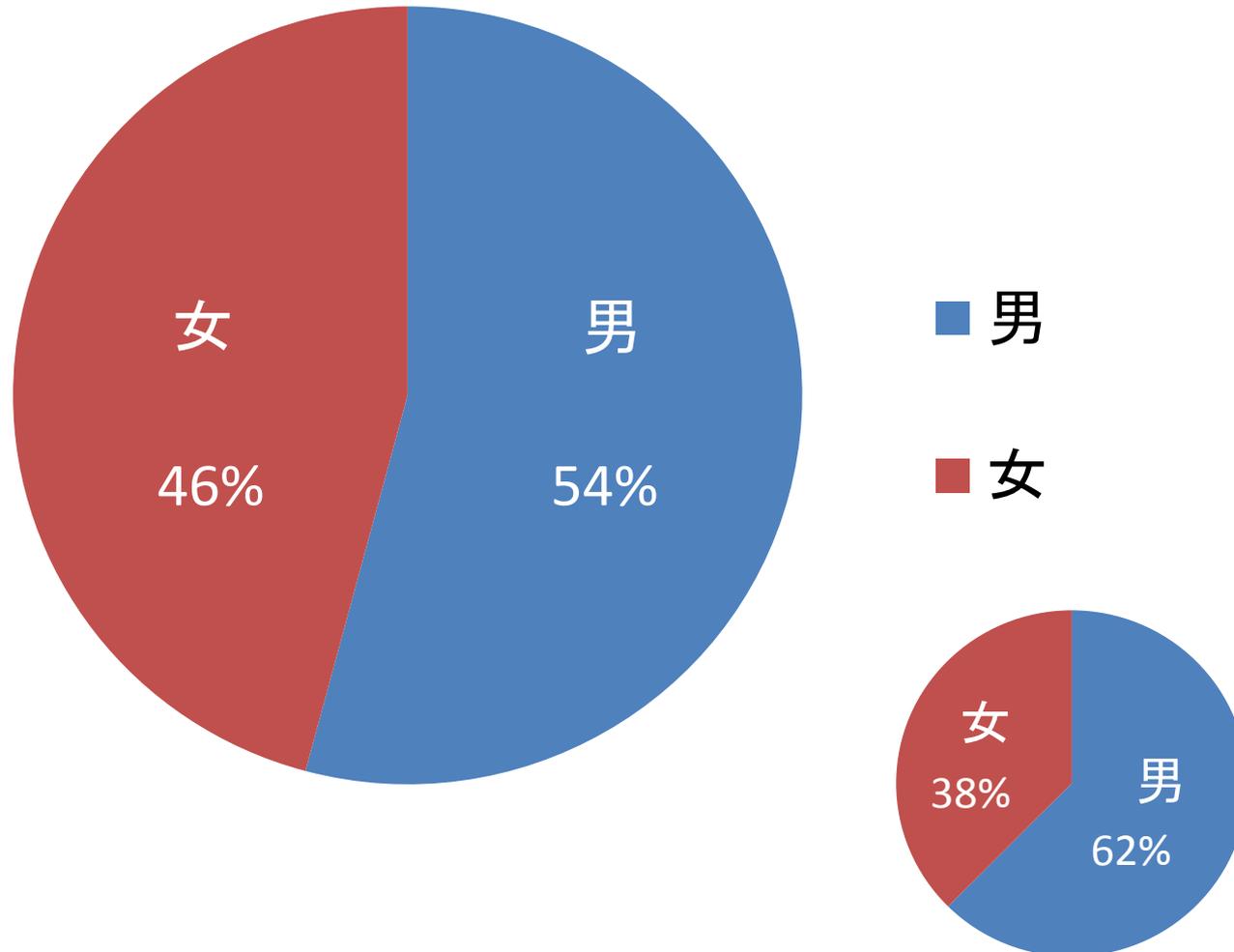
実施時期：2007年12月

回収率：48%（192名）

学生の内訳



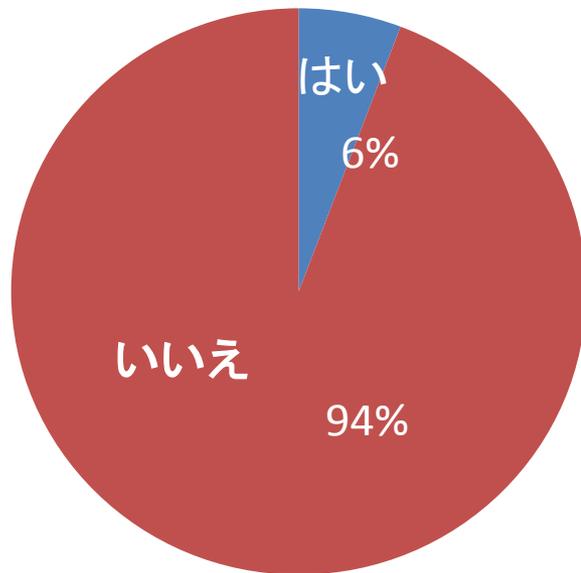
男女比



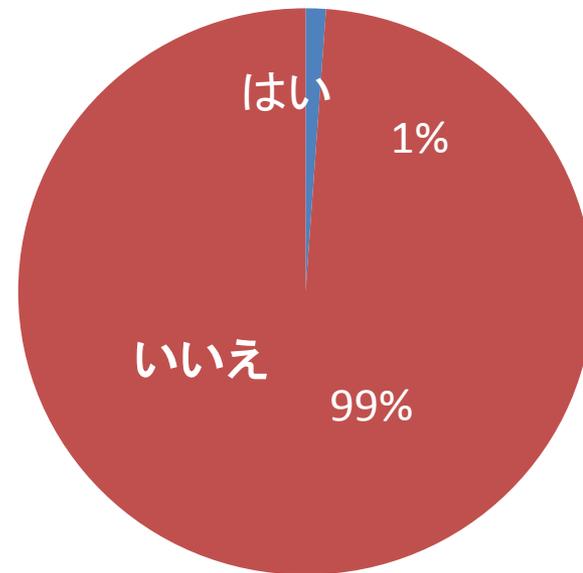
旭川医大の医学部医学科学生の男女比

Q. 結婚していますか？

男



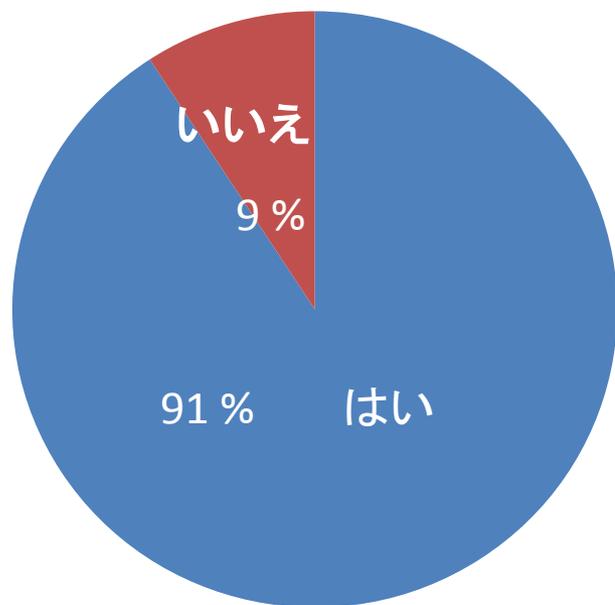
女



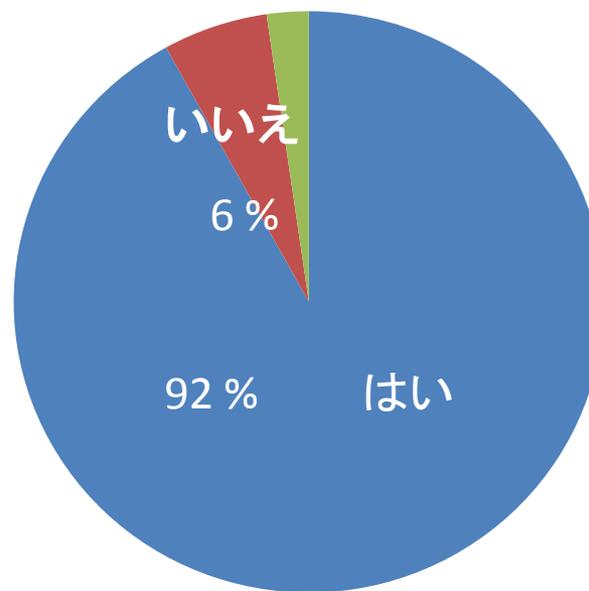
■ はい
■ いいえ

Q. 将来結婚したいですか？

男

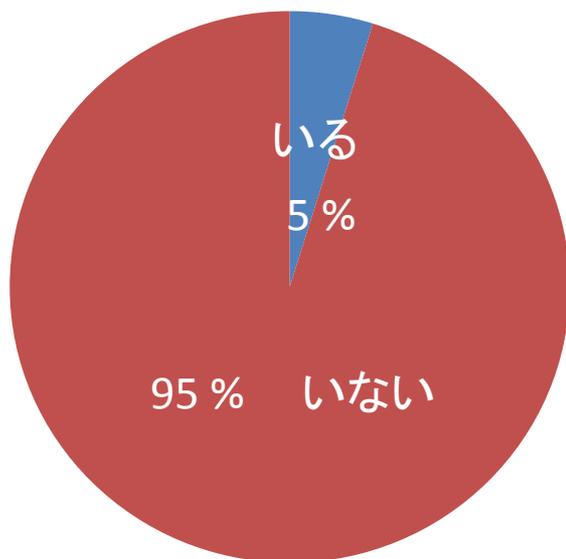


女

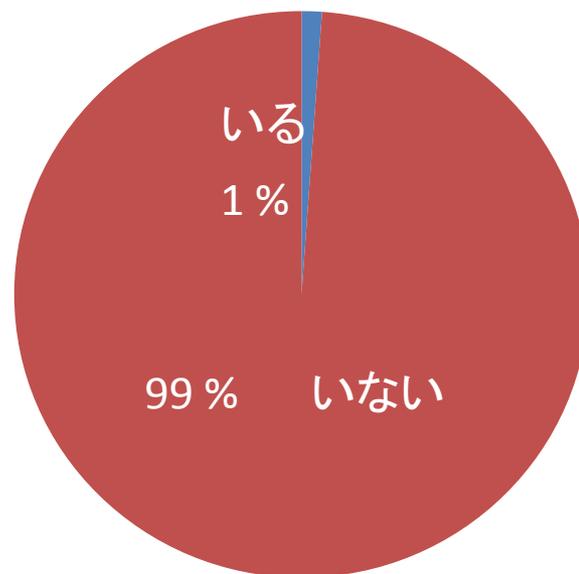


Q. 子供がいますか？

男



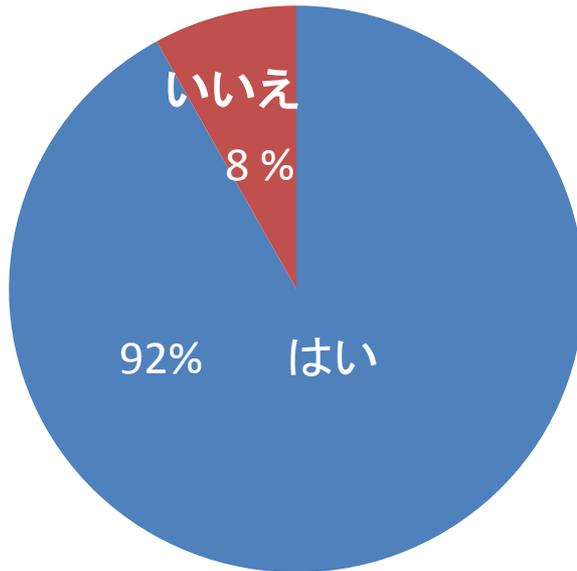
女



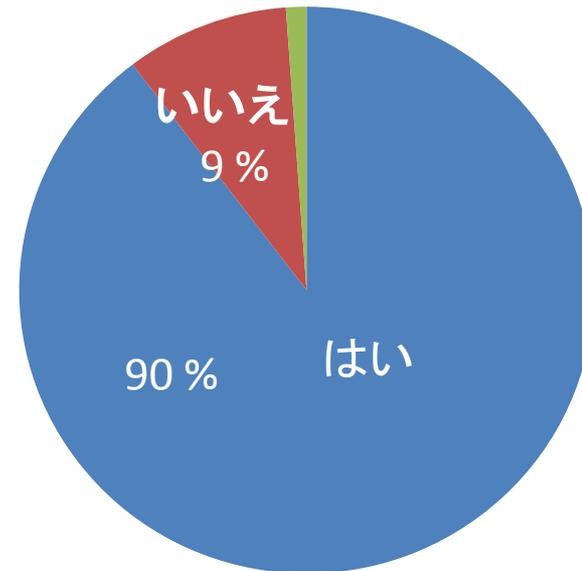
■ いる
■ いない

Q. 将来子供を持ちたいですか？

男



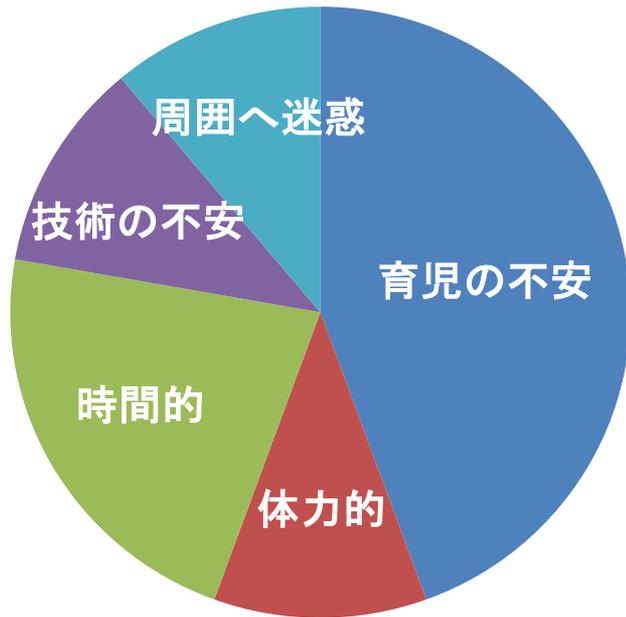
女



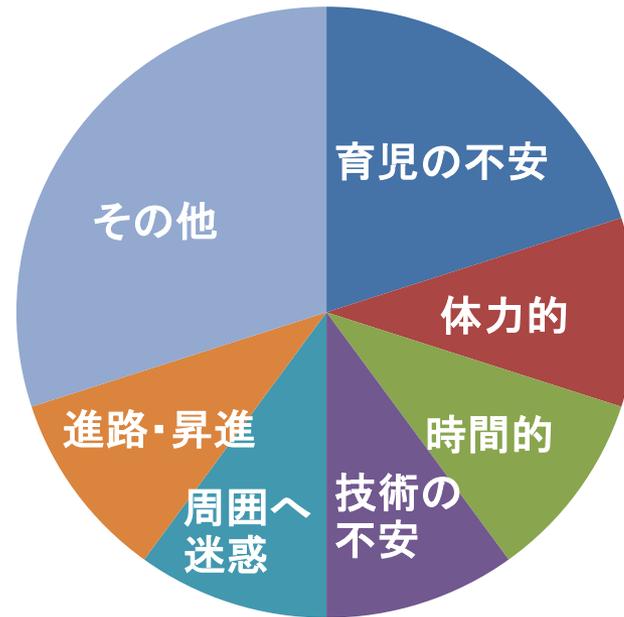
- はい
- いいえ
- 無回答

Q. 子供を持ちたくない理由は何ですか？

男



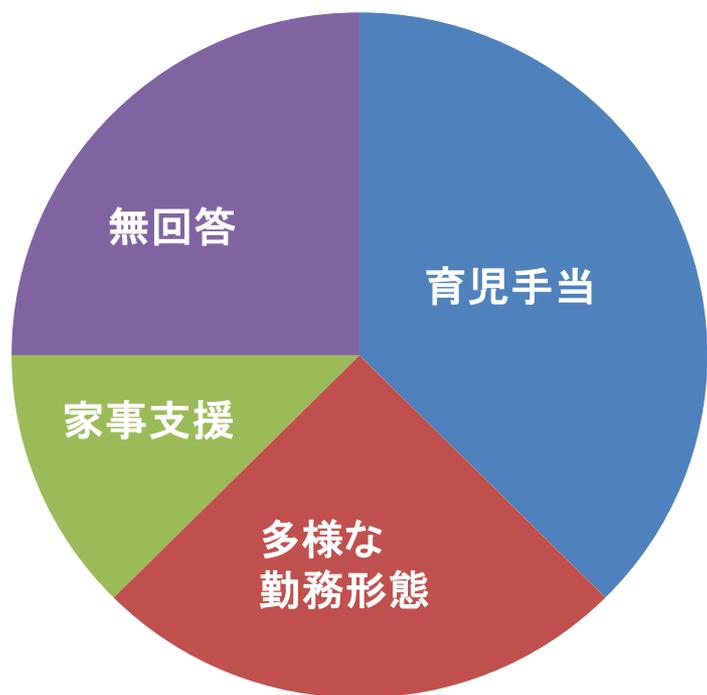
女



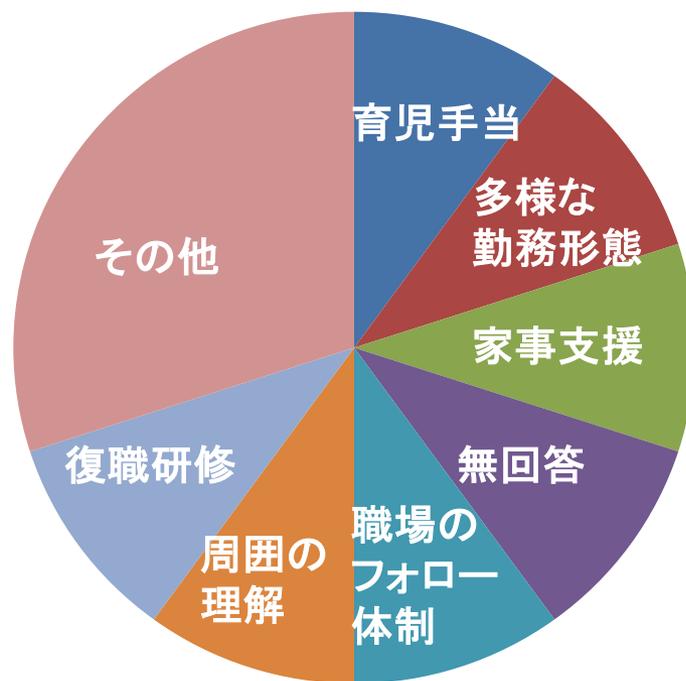
- 育児への不安
- 体力的に困難
- 時間的に困難
- 知識や技術への不安
- 職場に迷惑をかける
- 進路・昇進に差し障る
- その他

Q. どんな対策があれば子供を持ちたいと思いますか？

男



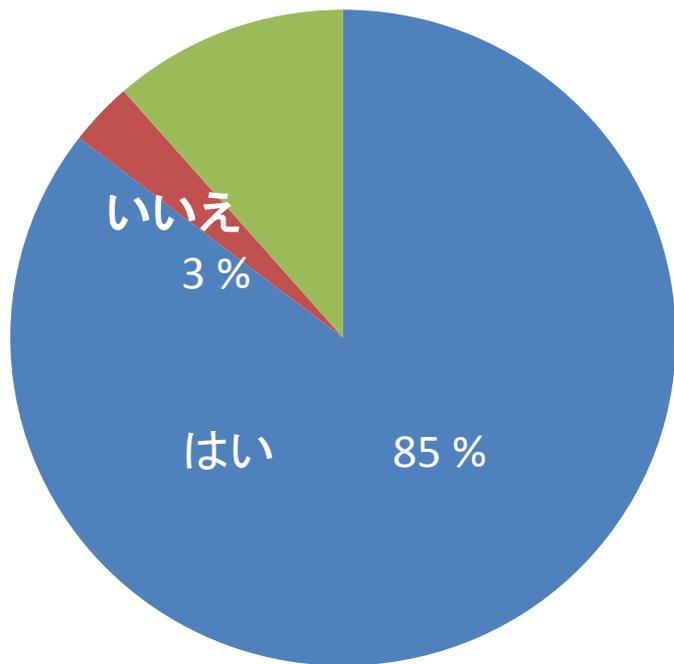
女



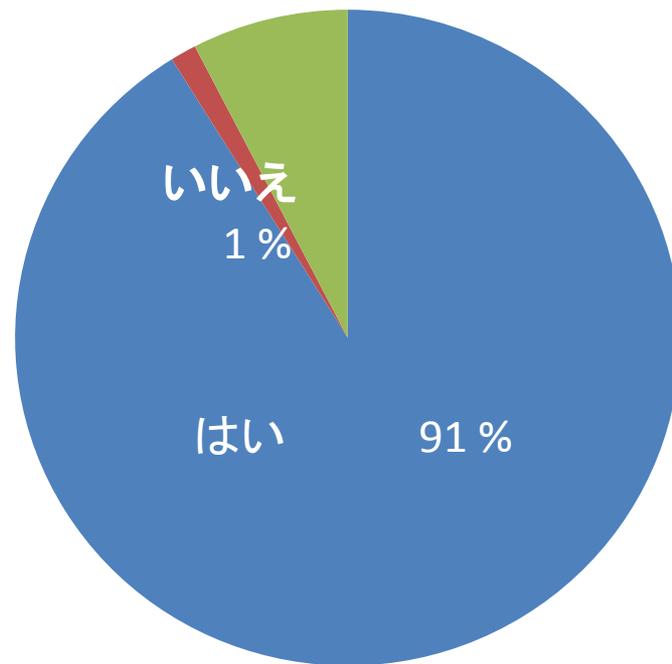
- 育児手当の増額
- 多様な勤務形態
- 家事支援がある
- 無回答
- 職場のフォロー体制
- 周囲の理解と協力
- 復帰のための研修制度
- その他

Q. ご自身が子育てに参加したいですか？

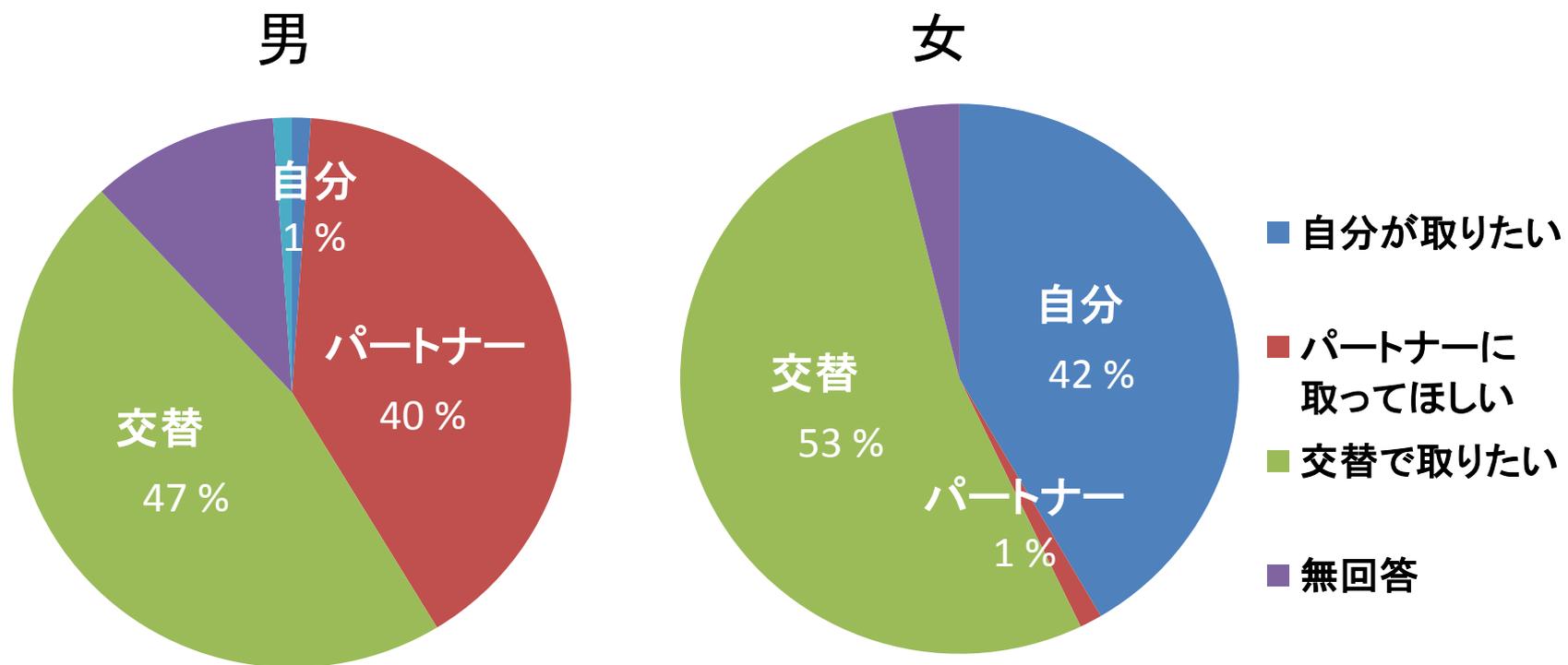
男



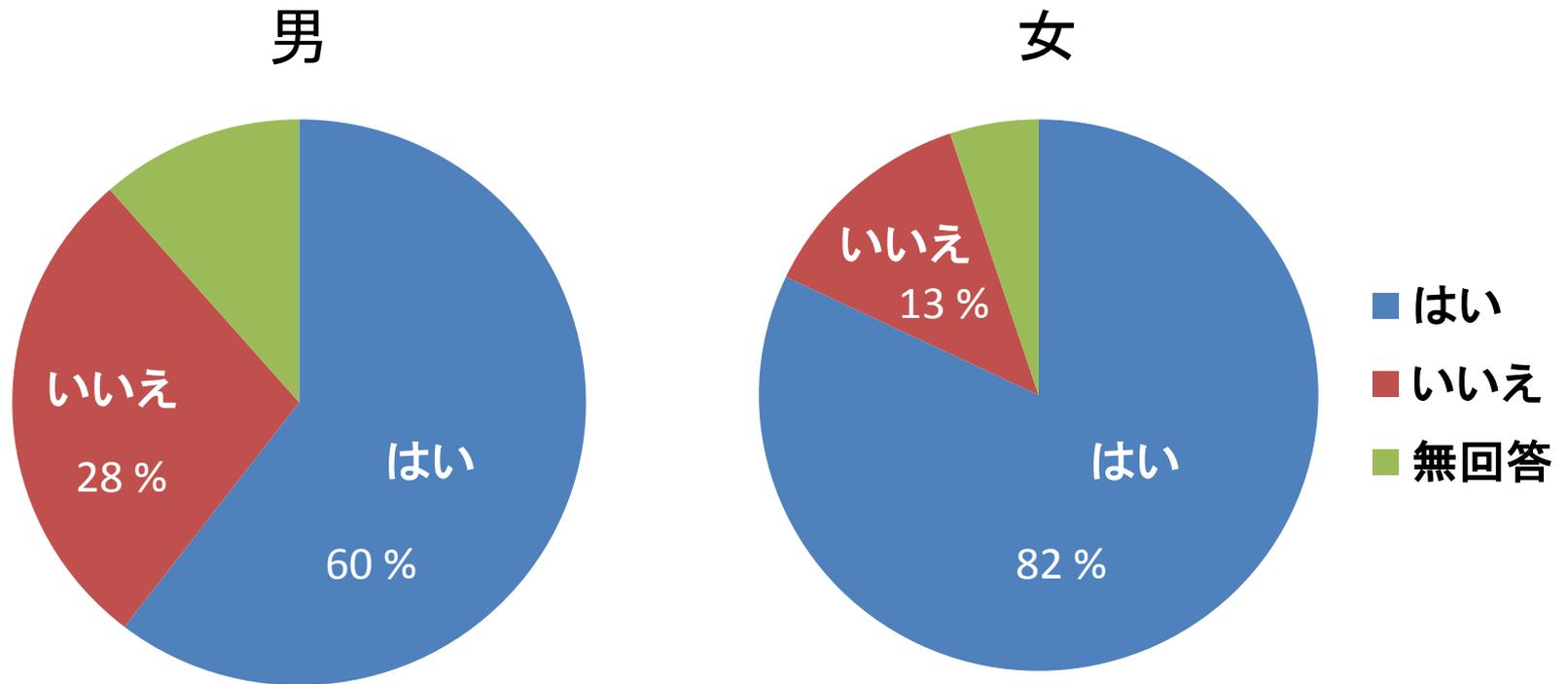
女



Q. 育児休暇についてどう思いますか？

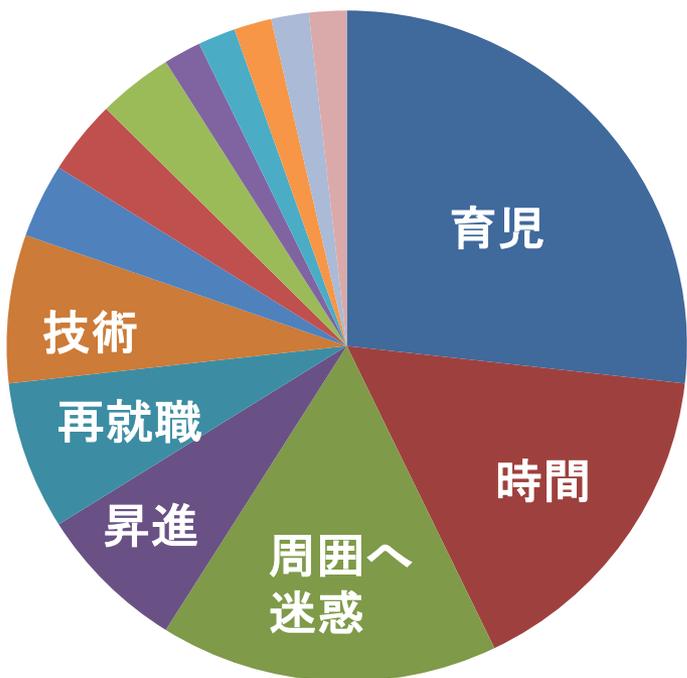


Q. 子供を持つこと、子育て中であることに不安を感じますか？

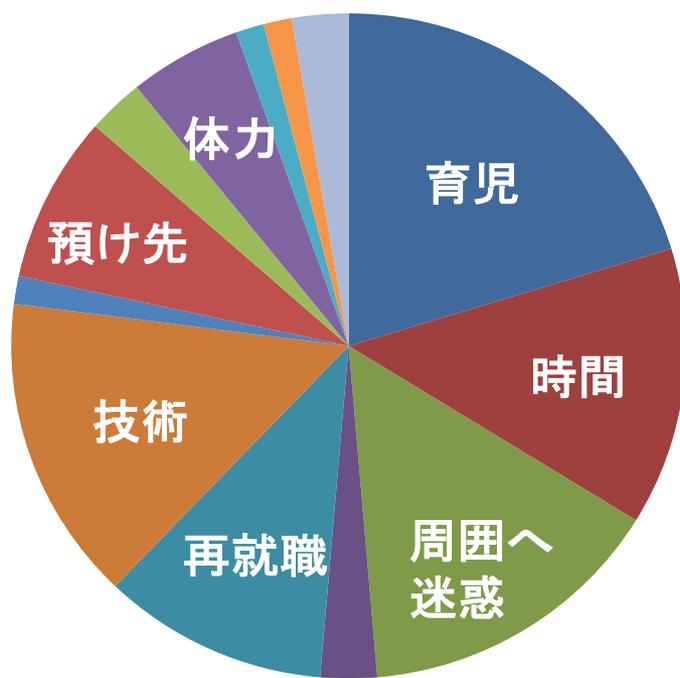


Q. 子供をもつことに不安を感じる要因は何ですか？

男



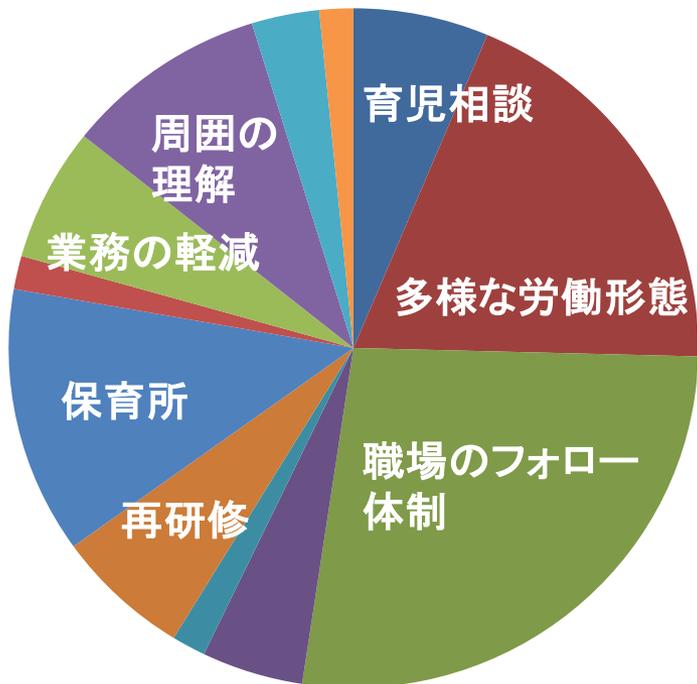
女



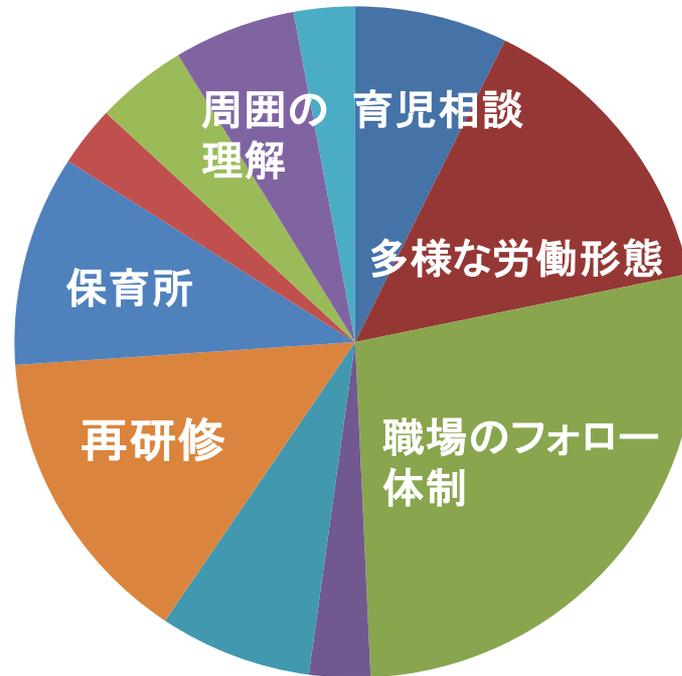
- 育児への不安
- 時間的に困難
- 職場に迷惑をかける
- 進路昇進に差し障る
- 再就職支援が不十分
- 知識や技術への不安
- 患者に迷惑がかかる
- 預け先がない
- 家事が不安
- 体力的に困難
- 家族に迷惑がかかる
- 無回答
- その他

Q. どんな対策があれば、その不安は軽減 されると思いますか？

男

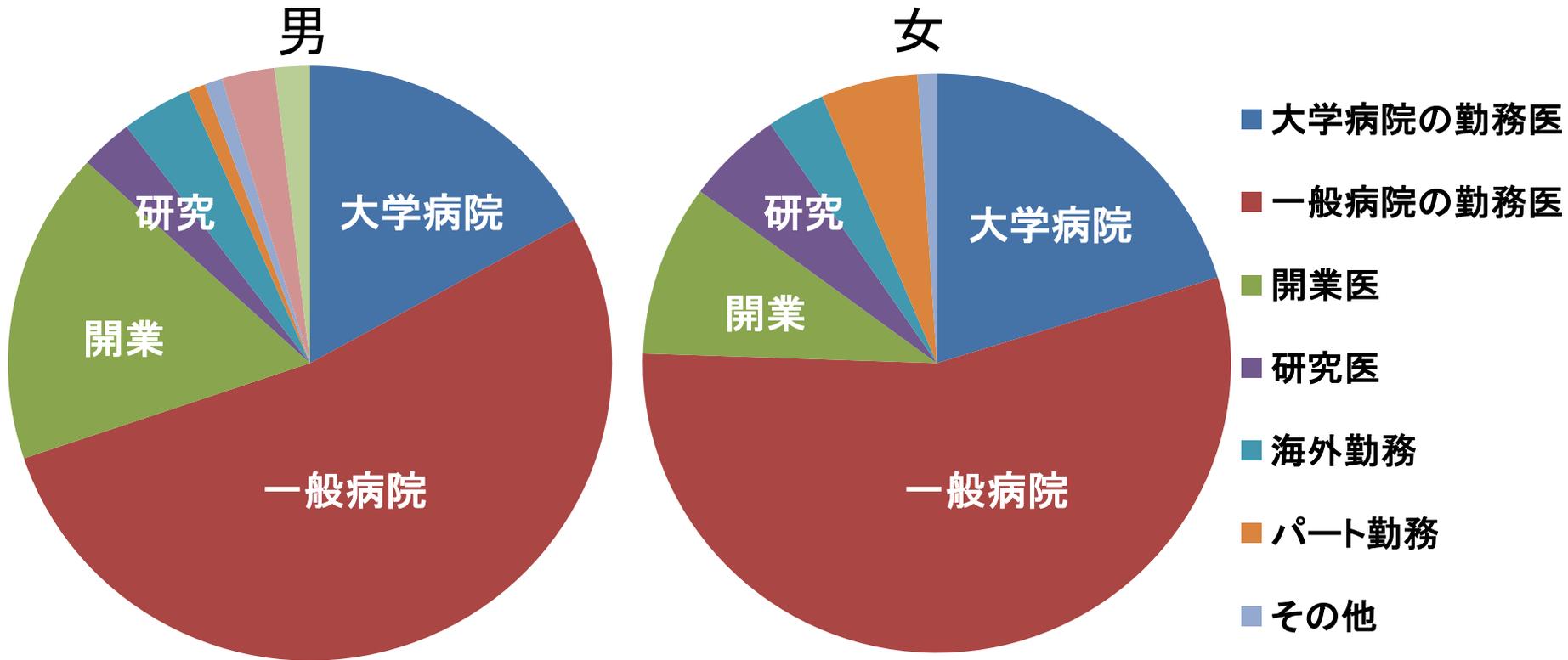


女

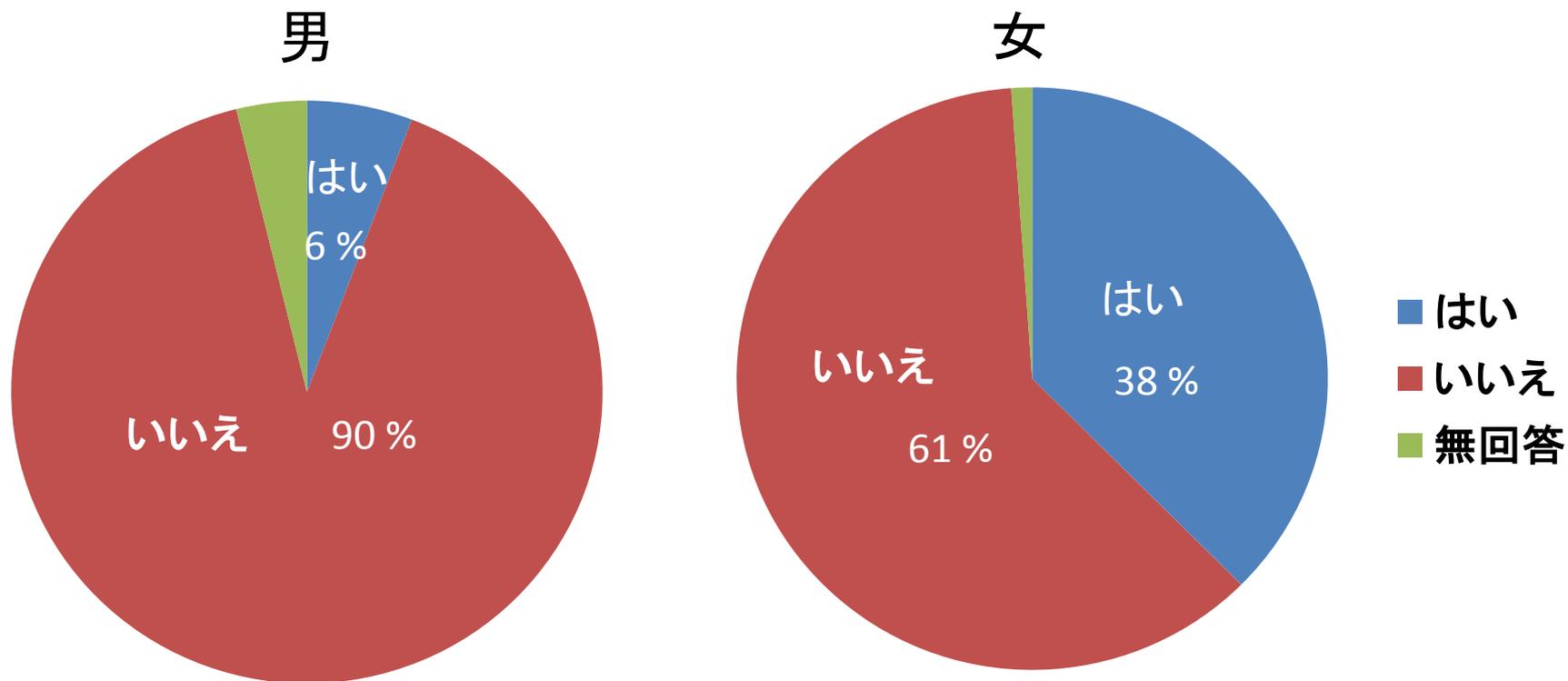


- 育児相談所の充実
- 多様な労働形態
- 職場のフォロー体制
- 進路昇進への保障
- 再就職の斡旋
- 復帰のための研修
- 保育所・ベビーシッターの充実
- 家事支援がある
- 業務内容の軽減
- 周囲の理解と協力
- その他

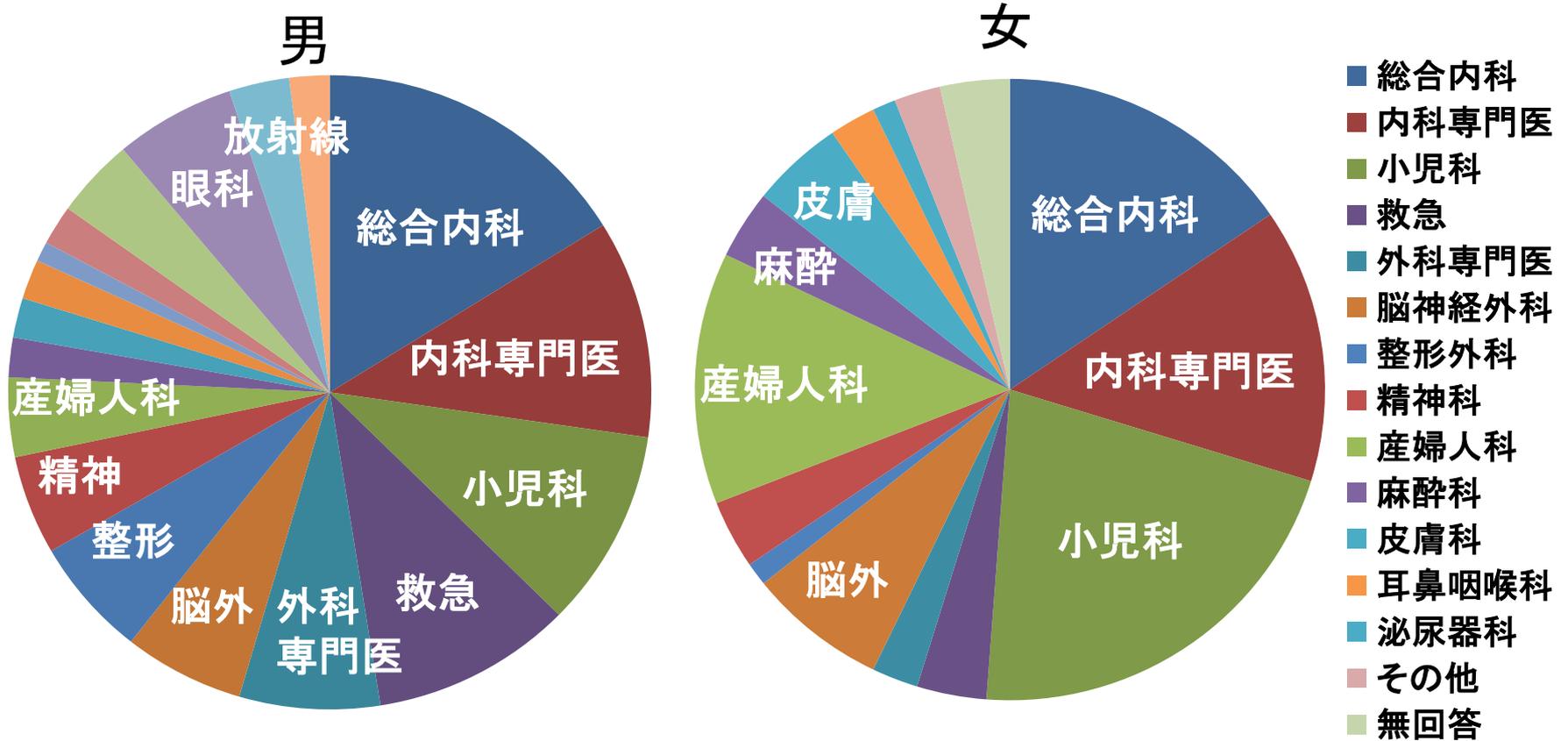
Q. 将来進みたい進路は？



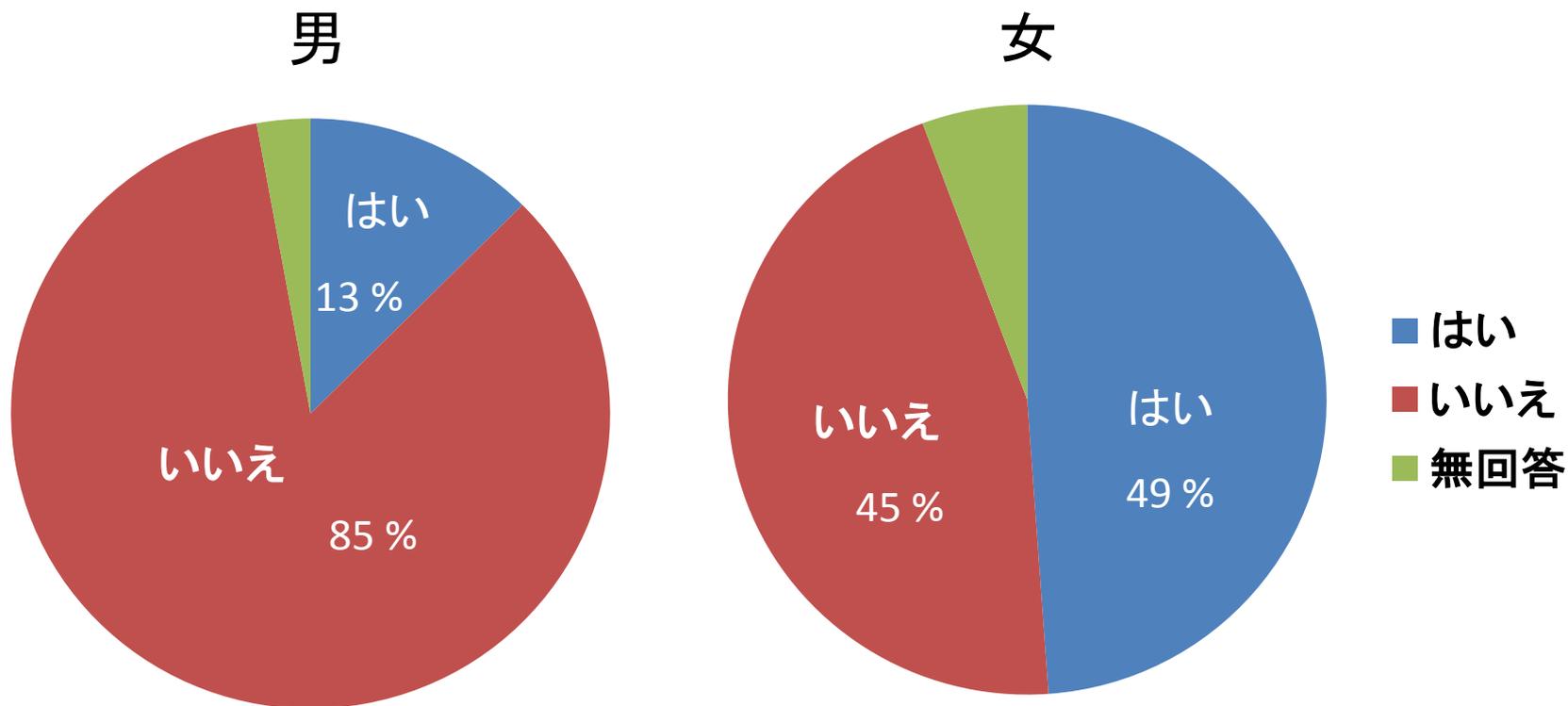
Q. 性別が進路の選択に影響を及ぼしていますか？



Q. どの診療科に興味を感じますか？



Q. 性別が診療科の選択に影響を及ぼしていますか？



アンケート調査から

- ・男女ともに多くの学生が、将来子供を持ち育児に参加したいと考えている。(育児休暇を交代で取りたいと考える学生が男女ともに約半数いる。)
- ・子育てに対して不安を抱える学生が多く、その対応策として多様な労働形態、職場の理解、復職研修、保育所の充実などを希望している。
- ・将来大学病院や一般病院への勤務希望者が多くを占める。
- ・現在(女性)医師の入局者が少ないとされている診療科を選択したいと考えている学生も多くいる。

その他の意見

- 女性は子供を産むという生物学的特徴を持っているので、何らかのフォローをする必要があるが、男性側としては何をどのくらい支援すれば良いのか知りたい。(4年男)
- 女性医師の労働条件の改善は絶対必要だが、男性医師の労働環境を改善しなければ、女性医師の負担も減らないと思う。(4年男)
- 男女をすべての面で等しく扱うのではなく、男女のそれぞれの特徴を生かした共同参画を望む。(4年男)

- 医療現場に女性の存在は不可欠であるので、同僚としてサポートできることがあれば協力したい。(4年男)
- 男性のみならず、女性も人生には様々な選択肢があり、それをどのように選択するかは個人の自由で尊重すべき。また、お互い様という助け合いの精神が根付いてほしい。(4年女)
- 差別と区別の混同がされないことを望む。(5年男)
- 育児に対する支援を強化してほしい。子供がいることが理由で、科の選択肢が狭まるようであれば支援できているとはいえないと思う。(5年女)

- 医師になりたいという思いと、家庭を持ちたいという思いに優劣はない。両立できるような支援体制を望む。(3年女)
- 二輪草プランを知って、旭川医大でなら子育てしながら働くことができると思った。(3年女)
- 男性も家庭を大切にできる労働環境が欲しい。男性医師が育児休暇を取得しにくい雰囲気がある。(3年男)
- 女性は、出産や育児など男性よりも大変なことが多いが、興味ある仕事を続けられることは良いことなので頑張ってもらいたい。(3年男)

- 男女とも勤務医夫婦の子育ては大変だと思う。どちらかが勤務時間を減らさなければ、子供の教育に良くないと思う。(3年男)
- 出産や育児で離職した女性の復帰が困難なのは医学界だけの話ではない。上手に対応している企業を参考にすべき。(3年男)
- 医師が皆疲弊しているのをまずどうにかするべきだ。(3年女)
- 医師免許がある限り、勤務地を変更しても医師であり続けることが可能であり、恵まれている環境にあると思う。(3年女)

- 30歳までに子供は1人は欲しいと思っていたが、復帰可能なかが不安。男性側の育児休暇を増やしても、取得する人は少ないであろうから、まずは女性の支援に重点をおいて欲しい。(3年女)
- 結婚出産を考えて科を選べとよく言われるが、忙しいといわれる科ほど女性医師に対する配慮が足りないのではないかと感じる。(6年女)
- 学生ですら子供がいたら厳しい現実、社会的制約があることを考えると将来にあまり期待ができず、やはり女性は大変だ。(5年女)

- 女性の働く環境を整えられないのなら、女性の入学を制限した方が良く。しかし、環境を整え医師を増員する方が賢い。
(5年男)
- 男だ女だと仰々しくするのは好きではない。同じ人間なのだから、やりたいようにやればよい。(3年男)
- 出生率を上げるには、男女共同参画社会を廃止するべき。
(4年男)
- 北海道男性医師の会を作って欲しい。(4年男)

二輪草センターとして

- 育児と仕事の両立、育児の不安の解消として
ロールモデルなどを提示。
- 各診療科へ育児支援の働きかけ。
- 女性医師のみではなく、男性医師も子育てに
参加しやすい環境づくり。